

研究ノート

帝政末期ロシアにおけるカザフ草原植民事業
—アクモリンスク州を中心に—

青 木 恭 子

富山大学人文科学研究第 83 号抜刷

2025 年 9 月

研究ノート

帝政末期ロシアにおけるカザフ草原植民事業

―アクモリンスク州を中心に―

青 木 恭 子

はじめに

本稿が対象とするアクモリンスク州とは、ロシア帝国ステップ総督府の一角を占める地域で、現在のカザフスタン北部からロシア連邦にかけて広がるカザフ草原（ステップ）に位置していた。アクモリンスク州は5つの郡からなり、最北部にはシベリア鉄道が通るオムスク郡とペトロパヴロフスク郡が東西に置かれ、そこから南にコクシェタフ郡、さらに南下したところにアトバサル郡とアクモリンスク郡が位置していた（地図）。

アクモリンスク州は、ヨーロッパロシアからの移住農民を多く惹きつけていた。1896年から1914年の19年間にチェリャビンスクとスィズラニを経由した移住者392万3975人のうち、移住先としてアクモリンスク州を申告した者は65万2790人と全体の16.6%を占めており、西シベリアのトムスク県(159万6240人、40.7%)に次いで二番目に多かった¹⁾。だがそれ以前には、アクモリンスク州へ向かう移住者はごくわずかだった。1885年から1893年の間に移住した約31万6600人のうち、アクモリンスク州へ移住したのは約4000人(1.3%)に過ぎない²⁾。つまり、アクモリンスク州への移住は、1890年代後半以降に激増したことになる。

第1回ロシア帝国国勢調査が行われた1897年の時点で、広義のロシア語（大ロシア語・小ロシア語・ベロロシア語）を母語とする者は、移住の歴史が長い西シベリアのトボリスク県では人口の91.6%³⁾、トムスク県でも91.4%を占めていた⁴⁾。それに対してアクモリンスク州では、広義のロシア語話者が占める割合は、州全体で33.1%に過ぎない⁵⁾。アクモリンスク州における植

1) Итоги переселенческого движения за время с 1896 по 1909 (включительно). СПб., 1910. С. 48–69; Итоги переселенческого движения за время с 1910 по 1914 (включительно). Петроград, 1916. С. 48–69.

2) Колонизация Сибири в связи с общим переселенческим вопросом. СПб., 1900. С. 196.

3) Первая всеобщая перепись населения Российской империи, 1897 г. Том 78. Тобольская губерния. СПб., 1905. С. 76–81.

4) Первая всеобщая перепись населения Российской империи, 1897 г. Том 79. Томская губерния. СПб., 1904. С. 70–75.

5) Первая всеобщая перепись населения Российской империи, 1897 г. Том 81. Акмолинская область. СПб., 1904. С. 50–51.

民事業は、人口の多数を占める先住民を常に考慮しながら進めなければならなかった。しかも、カザフ草原は19世紀になるまでロシア帝国の最前線であり、最初のロシア人植民者は辺境防衛を主たる任務とするカザークだった。カザフ草原の植民事業には、統治者として植民を推進する帝国政府、新たなロシア帝国臣民として統合される先住カザフ人、国境の防衛を担ってきたカザーク、ヨーロッパロシア出身の移住農民という、立場を異にする四者がかかわっていたのである。

ロシア帝国領ステップ地域の植民史研究は、時代ごとに政治やイデオロギーの影響を強く受けてきた。帝政期からロシア革命直後の1920年代までは、ステップ地域の農業植民はロシア帝国による統合および統治の文脈で語られ、遊牧よりも「先進的」な農業を発展させることは「望ましいもの」として肯定的に位置付けられていた。ここには、当時の中央政府や地方行政府の政策的意図、もしくはロシア人側の「文明化」思想が直接的に反映されている。1920年代以降は、強力なイデオロギーの影響により、植民史の解釈にも変化が起こる。1980年代までのソヴィエト史学においては、帝政ロシア政府のステップ植民政策には絶対的な否定的評価が下される一方で、「先進的」なロシア文化を伝播し「後進的」なカザフ遊牧民を「啓蒙」する存在として、ロシア農民移住者が果たす肯定的な役割が強調された⁶⁾。

1991年12月のソ連解体により、旧アクモリンスク州の大部分はカザフスタン共和国に、一部がロシア連邦に分割され、ステップ総督府の中心が置かれていたオムスク市はロシア連邦となった。独立後のカザフスタンの歴史学では、カザフ草原はロシア帝国の「植民地」と位置付けられる。帝政期の歴史とは植民地支配の歴史であり、その植民政策はカザフ人の伝統的な生活文化と生業を破壊したものとして、明確に否定的な評価が下された⁷⁾。

2000年代以降は、オムスク国立大学のA. レムニョフやM. チュルキンらを中心とした研究グループによって帝国研究や移住研究が活性化し、新たな研究が続々と公開されている⁸⁾。また、日本の研究者による中央アジア研究の質の高さは世界的にも高く評価されており⁹⁾、そのうち

6) Чуркин М. К., Токмурзаев Б. С. Аграрная колонизация Степного края: общественно-политический дискурс и имперские практики второй половины XIX – начала XX вв. Омск, 2019. С. 24–27.

7) Ремнев А. В., Суворова Н. Г. Колонизация Азиатской России: имперские и национальные сценарии второй половины XIX – начала XX века. Омск, 2013. С. 28–30; Чуркин, Токмурзаев. Аграрная колонизация Степного края. С. 32–40.

8) Абселемов С. А. Современная российская историография колонизации степного края во второй половине XIX – начале XX в. // Вестник Томского государственного университета. 2020. №. 452. С. 110.

9) Быков А. Ю. Российская политика в Степных областях и трансформация казахского общества (1731–1917 гг.). Т. 1. Москва, 2023. С. 9.

帝政期のカザフ草原の植民に関連するものとしては、カザフ＝ハン国に関する野田仁の研究が挙げられる¹⁰⁾。ただし、野田の研究は19世紀前半までが対象であるため、ロシア人移住者の大量移住が始まる19世紀末以降については扱われていない。ステップ総督府ではなく、トルキスタン総督府への植民に関しては、西山克典がセミレチエ州、植田暁がフェルガナ盆地を取り上げている¹¹⁾。なお、トルキスタン総督府を目指す移住者は全体からするとごくわずかであり、先述した移住統計によると、総督府全体でも8万6793人（2.2%）に過ぎなかった。

本稿では、ステップ諸州で最も多くの移住者が集まったアクモリンスク州を取り上げ、主にアクモリンスク州刊行の『アクモリンスク州概要』と先行研究に基づき、帝政ロシア政府によるステップ諸州の植民事業がどのように進められ、その結果アクモリンスク州の住民にどのような変化がもたらされたのか、主に事実関係をまとめて植民事業の概要を整理する。

第1章 ロシア帝国によるカザフ草原の統治と植民

ロシア帝国によるカザフ草原の統治の始まりは、1731年という年号で示されることがある。これは、カザフ遊牧社会をまとめる部族連合体である三つのジュズ（大・中・小）のうち小ジュズのアブハイル・ハンがロシア皇帝アンナ（在位1730–1740年）に対してロシア臣籍の宣誓を行った年である。このとき直ちにカザフ草原がロシア帝国統治下に入ったわけではないが、少なくともこれをきっかけに、カザフ草原は徐々にロシア帝国へ包摂されていくことになる。そして1822年に中ジュズ、1824年に小ジュズのハン位が廃され、ロシア帝国の統治機構に組み込まれた¹²⁾。

ロシア帝国によるカザフ草原の植民は、軍事的な目的から始まった。1716年にオムスク市の基礎となる軍事要塞が置かれ、1718年にはセミパラチンスク要塞が設置された。1752年にはイシム川沿いに聖ペトロ・パウロ要塞がおかれ、のちにペトロパヴロフスク市に改名される¹³⁾。要塞を結ぶように防衛線が築かれ、1740年代中頃には防衛と農耕を責務とする「耕作カザーク」が配備された。彼らがカザフ草原最初のロシア人植民者となるが、軍務と農耕の両立

10) 野田仁『露清帝国とカザフ＝ハン国』東京大学出版会、2011年。野田仁「遊牧民の法と社会—ロシア統治下カザフ草原における19世紀前半の変容」野田仁・小松久男編著『近代中央ユーラシアの眺望』山川出版社、2019年、56–73頁。

11) 西山克典『ロシア革命と東方辺境地域—「帝国」秩序からの自立を求めて』北海道大学図書刊行会、2002年。植田暁『近代中央アジアの綿花栽培と遊牧民—GISによるフェルガナ経済史』北海道大学出版会、2020年。

12) 野田『露清帝国とカザフ＝ハン国』45–50頁。野田「遊牧民の法と社会」57頁。宇山智彦・藤本透子（編著）『カザフスタンを知るための60章』明石書店、2015年、106頁。

13) Обзор Акмолинской области за 1912 год. Омск, 1913. С. 8.

は簡単なことではなく、農業生産性は決して高いものではなかった¹⁴⁾。

シベリアおよびステップ地域の植民政策と統治政策が大きく動き始めるのは、1822年のことである。このとき重要な役割を果たしたのが、アレクサンドル1世（在位1801-1825）治世初期の改革を支えたM. スペランスキーである。1812年3月に失脚し流刑されていたスペランスキーは、1816年に流刑を解かれたのち、ベンザ州知事を経て、1819年3月22日シベリア総督に任命された。彼は、1819年から1820年にかけてザバイカル地方まで巡察を行い、1820年末に皇帝宛の報告を送っている。翌年スペランスキーが首都に呼び戻されると、シベリア統治の改革案を取りまとめるため、シベリア委員会（第一）が1821年に設置された¹⁵⁾。シベリア委員会は、1821年7月28日から1822年5月19日という短期間で一連の法令案を作り上げ、それが1822年7月22日付けでシベリア統治に関する10法令として同時に公布された。そのうち、「シベリア諸県統治のための機関」¹⁶⁾では、シベリアは「西シベリア総督府」と「東シベリア総督府」に分割され（第1条）、カザフ草原を管轄するオムスク州は西シベリア総督府に含まれた（第2条）。「異族人統治規約」¹⁷⁾では「異族人」というカテゴリーが設定され（第1条）、カザフ人は遊牧異族人としてロシア帝国に組み込まれる存在となった（第3条）。なお、この法令では、ロシア人が異族人のものと認められた土地に勝手に入植することが厳しく禁じられていた（第31条）。

1822年はシベリア移住全般においても画期となる年である。スペランスキーは、シベリアの植民事業を進めるには流刑では極めて不十分であることを示し、政府が農民の自由移住を組織する必要性を指摘した。そこから、1822年4月10日付で「国有地農民にシベリア諸県への移住を許可することについて」¹⁸⁾が定められ、国有地農民の合法的な自由移住が初めて認められた。また、この法令の第8条では、「遊牧異族人に属する土地への移住は認められない」が、「その定住に関する特別な提案が承認された場合にはキルギス草原を除く」とも定められている。なお、当時カザフ草原は「キルギス草原」と呼ばれ、カザフ人は「キルギス人」もしくは「キ

14) Быков. Российская политика в Степных областях и трансформация казахского общества. С. 102.

15) シベリア委員会設置の日付に関して、野田『露清帝国とカザフ＝ハン国』では1821年6月21日付（66頁）、山本俊朗『アレクサンドル一世時代史の研究』（早稲田大学出版部、1987年）では1821年6月28日の勅令で「特別委員会」が組織され7月22日に「シベリア委員会」と名称を改めたとある（103-104頁）。Быков. Российская политика в Степных областях и трансформация казахского обществаでは1821年6月とあり（256頁）、Дамешек Л. М., Дамешек И. Л. М. М. Сперанский: замыслы и уроки сибирской реформы 1822 г. (Иркутск, 2022.)では1821年7月21日となっている（89頁）。

16) Полное собрание законов Российской Империи (ПСЗ). Серия 1. Том 38. № 29125.

17) ПСЗ. Серия 1. Том 38. № 29126.

18) ПСЗ. Серия 1. Том 38. № 28997; Ленский Н. Самовольные переселенцы и переселенческое законодательство. // Вопросы колонизации. 1914, №. 14. С. 100.

ルギス＝カイサク人」と誤称されていた¹⁹⁾。

カザフ草原では、1824年にコクチュエフ管区、1832年にアクモリンスク管区、1839年にアトバサル管区が、入植地として開放された。実際に入植が進むのは、1848年頃から1850年頃にかけて、小ロシア（ウクライナ）のカザークとオレンブルク県・サラトフ県の農民が、政府の指示で入植者として召集されたことに始まる。このとき召集された農民とカザーク3852人が、アクモリンスク州農業植民の最初の基礎を置いた。彼らは最も良質な農業用地を与えられてカザーク村を形成した²⁰⁾。1840年代から1850年代に政府の主導で行われた農民移住は、彼らをカザーク階級に配属することを想定していた²¹⁾。1850年代末までアクモリンスク州には農民の村は一つも作られておらず、植民の役割は完全にカザークのものだった²²⁾。

また、実際にどの程度の実効性があったのかは不明であるが、1858年4月19日付「内部諸県から西シベリアへ無許可で移住した者および税支払いが当てにならないシベリア諸県の古参住民をキルギス草原地帯あるいはシベリアの他の遠隔地へ移住させることについて」²³⁾が定められている。ここでは、「新たにシベリア諸県へ到達する無許可移住者」や西シベリアで「未だ定住していない者」を「キルギス草原地帯」または「シベリアの遠隔地」へ移住させるとしている。さらに「どのような場合、またはどのような条件で、怠慢により税を支払えないシベリアの古参住民をキルギス草原地帯へ移住させることが可能か」西シベリア総督が判断するよう命じられている。

次にステップ統治政策が大きく動くのが、1868年10月21日に裁可された「ウラリスク州、トゥルガイ州、アクモリンスク州、セミパラチンスク州臨時統治規程」²⁴⁾である。第1条では上記4州が設置されること、第2条ではウラリスク州とトゥルガイ州がオレンブルグ総督府に、アクモリンスク州とセミパラチンスク州が西シベリア総督府に属することが定められた。この規定は、ステップ諸州の農業植民に関するロシア帝国の政策の基礎を定めたものと位置付けられる²⁵⁾。カザフ人遊牧民が使用している土地は国家の所有地とされ、カザフ人の共同利用地としての用益権が確認された（第210条）。カザフ人遊牧民の冬営地には住居や経営設備などを建てる権利があり、それらの建造物は私的所有物であり売却も可能で、建造物が存在する限りは土地も世襲で利用できると定められた（第217条）。また、農耕を行うことを希望する者に

19) 「カザフ〔人〕」『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年、117頁。

20) Обзор Акмолинской области за 1913 год. Омск, 1914. С. 9–10.

21) Ремнев, Суворова. Колонизация Азиатской России. С. 59.

22) Обзор Акмолинской области за 1910 год. Омск, 1911. С. 19.

23) ПСЗ. Серия 2. Том 33. № 33029.

24) Временное положение об управлении в областях Уральской, Тургайской, Акмолинской и Семипалатинской. СПб., 1883.

25) Чуркин, Токмурзаев. Аграрная колонизация Степного края. С. 65.

は共同体から農業に適した用地を分与されることも定められている（第219条）。さらにカザフ人は「自分の区画もしくはその一部を、自発的な合意に基づき、ロシア人に利用させる権利を有する」とも定められていた（第220条）。

農民移住に関して言えば、1860年代から1870年代には、政府はウラル以東への移住全般に対して抑制する政策をとっていた。移住は農民の間に放浪癖を助長するといったような否定的な意見も根強く、「ヨーロッパロシア農民に移住許可を与えることは、規則というよりはむしろ例外」²⁶⁾だった。とりわけステップ諸州への移住者流入は、先住民の土地を勝手に占拠し、紛争を引き起こすなど、地域の状況に深刻な脅威になると考えられていた²⁷⁾。

カザフ草原への農業植民を推進するべきか、それとも遊牧民保護のためロシア人農民の入植を禁止するべきか、現地当局者の意見も割れていた。西シベリア総督ジュガメリ（在任1861–1866年）は遊牧民保護の立場で、「非常に恵まれた環境と素晴らしい放牧地が見られるにもかかわらず、このステップは農業には適しておらず、常に遊牧民だけが暮らす」と主張した。1873年には、アクモリンスク州軍務知事ツィトヴィチも「キルギス人を定住化させることは、牧畜を殺すことを意味する。これは全く望ましいことではない。ましてキルギス人から生活の糧を奪いながら、我々は彼らに代わりに与えられるものは何もない。ロシア人の定住地をステップに作るのは望ましいことかもしれないが、森もなく、場所によっては淡水もないような状況では、アクモリンスク州が提供できる便宜はほとんどない」と述べ、ロシア人農民の植民には慎重な姿勢を崩さなかった²⁸⁾。

それに対して西ベリア総督カズナコフ（在任1875–1881年）は、ステップ諸州へのロシア人農民の植民推進に積極的だった。カズナコフ総督は、カザークの植民ではカザフ遊牧社会に文化的な影響を何も及ぼさないと主張し、ロシア人農民の植民が不可欠であるという問題を提起した²⁹⁾。1870年代以降、カザークは植民者としての座を農民に明け渡し、以後アクモリンスク州への移住は農民が主体となる。

さらにカズナコフ総督は、ペテルブルクへ送った報告書（1875年9月30日付）の中で、「ステップ諸州の状況は、特別な注意を必要とする。（中略）現在は許可されていないが、ステップ内

26) Чуркин М. К. Переселение крестьян черноземного центра Европейской России в Западную Сибирь во второй половине XIX – начале XX вв.: детерминирующие факторы миграционной мобильности и адаптации. Омск, 2006. С. 167.

27) Чуркин, Токмурзаев. Аграрная колонизация Степного края. С. 153–154.

28) Ремнев, Суворова. Колонизация Азиатской России. С. 60–61.

29) Остафьев В. Колонизация степных областей в связи с вопросом о кочевом хозяйстве. // Записки Западно-Сибирского отдела Императорского Русского географического общества. Кн. 18. Вып. 1. Омск, 1895. С. 8.

奥にロシア人定住民を、遊牧民を圧迫しないよう慎重に植民すること、国境線だけでなくキルギス人が恒常的に利用する冬営地の場所でもロシア人とキルギス人が頻繁に接触すること、より快適な生活の実例を日常的に目にすること、夏の間は遊牧を行い、春には耕地に播種し、秋には収穫と草刈りを行い、凍り付く冬に避けられない家畜の大量死から免れるような、そのような遊牧と農耕が合体した生活を始めるキルギス人に奨励金をだすことが、半ば未開の民の風習を穏やかにし、生活水準を引き上げることを可能にする唯一の手段であると思われ³⁰⁾と述べている。ここには、ロシア人農民の植民を推進するもう一つの意図、すなわち遊牧民の気質や生活様式に影響を与え、彼らに農業を学ばせることで、遊牧生活から定住生活へ移行させようという目論見が表れている。

カズナコフ総督のもとで、1878年にアクモリンスク州への正式な農民入植が行われた。農民移住者の入植地として30区画が選定され、男性1人当たり30デシャチナの分与地が区割りされた。このうち最初に入植が行われたのは、コクチェタフ郡11区画、アクモリンスク郡7区画で、男性819人とその家族が入植した。移住者には自分で区画を見つける権利が与えられた。さらに、ステップに來たすべての移住者には、2年間のうちに建物を建てて定着すれば、税と地代の10年間支払い免除の特典が与えられた³¹⁾。しかし、このときの植民は成功とはいえなかったようである。大部分の区画で耕作適地、放牧地、草刈り地などが不足していた。そのため、廃村になった村もあれば、住民が新たな区画に移動してしまった村もあった³²⁾。

ところが、後任の西シベリア総督コルパコフスキー（在任1881-1882年、ステップ総督³³⁾ 1882-1889年）は、ステップ諸州へのロシア人農民植民事業には反対の立場だった。コルパコフスキー総督は、アクモリンスク州はロシア人によって植民され得ないと断言した。農耕に適した土地がないこと、カザフ人だけが土地に対する権利を持っており、地域の環境にも適応できるというのがその理由だった。このとき、ステップ諸州の植民は正式に中止された³⁴⁾。

1880年代には、実際に、無許可移住者に対しても厳しい措置が講じられていた。カザフ人の土地に賃借料を払って1871年から入植していたコクチェタフ郡の無許可移住者は、当局によって3回追い出されたという。1880年に彼らは正式な入植と土地分与を求めたが、請願は聞

30) Ремнев, Суворова. Колонизация Азиатской России. С. 62.

31) Обзор Акмолинской области за 1907 год. Омск, 1908. С. 18; Остафьев. Колонизация степных областей. С. 12.

32) Бекмаханова Н. Е. Многонациональное население Казахстана и Киргизии в эпоху капитализма (60-е годы XIX в. – 1917 г.). М., 1986. С. 111.

33) 1882年5月18日付で西シベリア総督府が廃止され、ステップ総督府が設置された。トボリスク県とトムスク県は総督府から外れ、ステップ総督府はアクモリンスク州、セミパラチンスク州、セミレチエ州（1897年にトゥルケスタン総督府へ移管）で構成された。ПСЗ. Серия 3. Том 2. № 886.

34) Остафьев. Колонизация степных областей. С. 11-12.

き入れられず、退去を命じられた。彼らは再び同じ区画に入植したが、1882年に再び追い出された。新たな納付金を追加してカザフ人に支払い、彼らは再度同じ区画に入植したが、1883年に三度目も退去させられてしまった³⁵⁾。

再び流れを変えたのが、1889年7月13日付移住法³⁶⁾の制定である。アクモリンスク州は、セミパラチンスク州・セミレチエ州とともに、自発的な農民移住を許可する地域に含まれた（第1条第6項）。このときから、カザフ草原への農業植民が本格的に開始された。

1868年臨時統治規程から四半世紀近く経過してようやく、1891年3月25日付で「アクモリンスク州、セミパラチンスク州、セミレチエ州、ウラリスク州、トゥルガイ州統治規程」が定められた³⁷⁾。この1891年統治規程では、1868年臨時統治規程と同様に、遊牧民の土地は国有財産であること（第119条）、遊牧民共同体には無期限で土地の共同利用が認められること（第120条）が定められている。ただし、そこに「遊牧民にとって余剰とみなされる土地は、国有財産省の管理下に置かれる」との注記が加えられた。また、1868年臨時統治規程ではロシア人に土地を賃貸することはカザフ人個人にも認められていたが、1891年統治規程では、冬営地の土地を30年間まで農業用地や工業用地としてロシア人に賃貸することが、個人ではなく遊牧民共同体だけに認められた（第126条）。

1889年移住法でカザフ草原を農民入植地として開放したことにともない、移住者に分与する入植区画を準備する必要が生じた。しかし、定住農業に適した地域は大半がカザフ人遊牧民の利用地になっていた³⁸⁾。そこで、1891年統治規程第120条の注記により、「余剰地」とみなされた土地が遊牧民から切り取られ、移住者用の入植区画が作られることになる。

1891年には、無許可で移住してきた者を入植させるため、また入植可能な空いた土地を明確にするため、ステップ総督の働きかけにより、ステップ諸州への移住が一時的に中断された³⁹⁾。その間に1893年6月13日付「シベリア鉄道沿線に移住区画と予備区画を作るための臨時規則」が定められ、移住区画と予備区画を造成すべき地域にアクモリンスク州ペトロパヴロフスク郡とオムスク郡が含まれた。区画を作る仕事には、「シベリア鉄道委員会規則」（1893年3月4日制定）に基づいて国有財産省に設置された臨時の土地測量隊が任命された。また、区画の基準は男性1人当たり15デシャチナとも定められている⁴⁰⁾。これをうけて、1893年から1895

35) *Остафьев*. Колонизация степных областей. С. 14.

36) ПСЗ. Серия 3. Том 9. № 33029.

37) ПСЗ. Серия 3. Том 11. №. 7574.

38) Обзор Акмолинской области за 1893 год. Омск, 1895. С. 12.

39) *Остафьев*. Колонизация степных областей. С. 16.

40) Сибирские переселения. Вып.2. Комитет Сибирской железной дороги как организатор переселений. Сборник документов. Новосибирск, 2006. С. 91–96.

年にかけて、ペトロパヴロフスク郡では37移住区画と9予備区画が、オムスク郡には20移住区画と10予備区画が区割りされた。1895年にはコクチェタフ郡でも8移住区画と1予備区画が作られた⁴¹⁾。

こうして、アクモリンスク州の入植地への農民移住が、北部の郡から本格的に開始された。

第2章 カザフ草原の住民と入植者

カザフ草原は、農耕にも牧畜にも適した豊かな土壌は北部に集中しており、南部はソロネツ土と砂漠が多くて植物の生育も粗末だった。遊牧民は、夏の間は飼料と水が豊富な北部で放牧し、冬になると比較的暖かい南部で冬営していた。このように彼らは、北部の夏营地、南部の冬营地、その間をつなぐ遊牧路の決まったルートを循環する生活を送っていたが、そのうちに自分たちの利用地すべてを維持するのが困難になる一族も出てきた。彼らは冬の間も北部に留まり、厳しい寒さと雪嵐に耐えられる常設の冬用住居と家畜用囲いを設置し、冬に備えて家畜飼料を備蓄するようになり、定住化の道を歩み始めた⁴²⁾。やがて北部にロシア人農耕者が入植してくるようになると、カザフ人の生活も否応なしにロシア人の影響を受けるようになる。

先述のように、カザフ草原最初の植民者はカザークだった。臨時統治規程が出された1868年時点でのアクモリンスク州の人口は37万5370人、そのうち遊牧民は27万3460人（約73%）で、定住民は10万1910人（約27%）と記録されている。定住民は5都市（オムスク・ペトロパヴロフスク・コクチェタフ・アトバサル・アクモリンスク）とカザーク村に居住し、そのうち都市居住者は4万5805人、カザーク村の居住者は5万6105人だった。カザーク村の住人がいるのはオムスク郡、ペトロパヴロフスク郡、コクチェタフ郡の3郡のみであり、南部のアトバサル郡とアクモリンスク郡にはカザーク村の住人は記録されていない。なお、1870年より前には農民の集落は一つも存在しないことになっていた⁴³⁾。

実際には、無許可移住農民の集落が既に形成されていた。政府の植民政策が後手に回っている間にも、農民は無許可で移住していたのである。アクモリンスク州で最初の無許可移住農民が入植したのは、1866年のことである。彼らはトボリスク県と北東部沿ヴォルガ地方のペルミ県から来た農民で、カザフ人の土地を賃借し、コクチェタフ郡のクリヴォイ湖畔に入植して集落を形成していた⁴⁴⁾。その後も無許可移住者は後を絶たなかった。

41) Обзор Акмолинской области за 1905 год. Омск, 1907. С. 6.

42) Седельников Т. И. Борьба за землю в киргизской степи (Киргизский земельный вопрос и колонизационная политика правительства). СПб., 1907. С. 13–15.

43) Обзор Акмолинской области за 1913 год. С. 12.

44) Обзор Акмолинской области за 1907 год. С. 17.

1889年移住法によりアクモリンスク州に入植区画が作られるようになった後も、アクモリンスク州への移住者には無許可移住が多くを占めていたことは、統計にも表れている。1896年から1914年の世帯移住者（単身移住者を除く）61万1330世帯のうち、アクモリンスク州を行先として申請した10万4237世帯の約60%が、正式な移住許可を受けていない無許可移住者だった。ちなみに、アジアロシア全体では無許可移住世帯の割合は45%程度だった。他の主立った入植地のうち、トボリスク県、トムスク県（北部3郡の国有地）、エニセイ県、イルクーツク県、アムール州、沿海州では、正式な移住許可を受けた世帯が6割から8割を占めていた⁴⁵⁾。

無許可移住農民がアクモリンスク州で求めた入植先は、主にカザフ人の利用地だったと思われる。カザフ人の共同体がロシア人に土地を賃貸することは、統治規程でも認められていたが、賃貸借契約を結ばずカザフ人側の合意もなく勝手に入植してしまう移住者もいた⁴⁶⁾。

カザフ人から土地を賃借して入植した農民で十分な資金を持っていない者は、収穫物折半という契約をすることが多かった。その場合、土地と農機具および役畜は貸主であるカザフ人の所有だが、移住農民にはその農機具を使いこなす経験があった。このような賃貸借形態は、農機具の購入費用の他には大きな出費もかからず、穀物や飼料を手に入れることができたので、カザフ人側にとって必ずしも悪いものではなかった⁴⁷⁾。

1889年初頭までにアクモリンスク州に新たに形成された農民村は19で、その人口は8352人（男女）だった。その年の終わりには、村は全部で24になり、住民の数は1万1740人まで増加した。アクモリンスク州への移住者流入が特に多かったのは、1890年夏のことである。その年は5月だけでオレンブルグを経由してアクモリンスク州へ905世帯（5326人）が移住し、同年秋までに、アクモリンスク州には1万5000人以上の農民が集まった。彼らを入植させるためにカザフ人の土地から12区画が切り取られた。その内訳は、ペトロパヴロフスク郡2区画、コクチェタフ郡9区画、アトバサル郡1区画である⁴⁸⁾。1891年には、アクモリンスク州の農民村は全部で52になっていた（男性2万382人、女性1万9213人）⁴⁹⁾。

移住農民の流入により、アクモリンスク州の住民構成（カザフ人、カザーク、ロシア人農民）には具体的にどのような変化が生じていたのだろうか。

1882年には、アクモリンスク州全体の人口は46万7823人が数えられているが、農民はわず

45) Итоги переселенческого движения за время с 1896 по 1909. С. 48–69; Итоги переселенческого движения за время с 1910 по 1914. С. 48–69

46) Обзор Акмолинской области за 1907 год. С. 17.

47) Чуркин, Токмурзаев. Аграрная колонизация Степного края. С. 187–188.

48) Обзор Акмолинской области за 1907 год. С. 18–19.

49) Обзор Акмолинской области за 1905 год. С. 6.

か2.5%に過ぎず、カザークはその5倍以上だった（表1）。州全体ではカザフ人が四分の三を占めており、郡ごとに見てもカザフ人が過半数を下回るのはオムスク郡のみであった。南部のアトバサル郡とアクモリンスク郡ではカザフ人が96%を超えており、1880年代初頭の時点ではロシア人がほとんど入植していなかったことがわかる。

表1 アクモリンスク州の住民構成（1882年）

	アクモリンスク州 全体		オムスク郡		ペトロパヴロフスク郡		コクチェタフ郡		アトバサル郡		アクモリンスク郡	
	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%
農民	11837	2.5	3110	3.7	4218	4.2	3295	3.6	921	1.4	293	0.2
カザーク	67774	14.5	14647	17.5	30187	29.8	20808	22.6	962	1.5	1170	0.9
カザフ人	343395	73.4	37262	44.4	59444	58.7	62992	68.4	62261	96.5	121436	96.4
全体	467823	100.0	83874	100.0	101287	100.0	92143	100.0	64501	100.0	126018	100.0

【出典】Обзор Акмолинской области за 1882 год. (Приложение ко всеподданнейшему отчету Акмолинского губернатора.). Омск, 1883. Ведомость лит. А.

アクモリンスク州全体の人口で、農民がカザークを逆転したのは1890年代中頃のことである。表2が示すように、1894年のアクモリンスク州の人口55万9491人のうち、農民は10.0%、カザークは12.0%を占めており、わずかではあるがカザークの方が上回っている。一方、カザフ人はその割合を州人口の三分の二まで減らし、ペトロパヴロフスク郡とコクチェタフ郡では辛うじて過半数を上回っている。また、アトバサル郡とアクモリンスク郡でも徐々に農民人口が増えていることがわかる。

表2 アクモリンスク州の住民構成（1894年）

	アクモリンスク州 全体		オムスク郡		ペトロパヴロフスク郡		コクチェタフ郡		アトバサル郡		アクモリンスク郡	
	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%
農民	55911	10.0	13159	13.37	11803	10.0	21580	18.6	4417	5.4	4952	3.4
カザーク	67185	12.0	14630	14.86	28067	23.8	22459	19.3	1000	1.2	1029	0.7
カザフ人	374523	66.9	38163	38.77	61850	52.5	64704	55.7	74704	92.0	135102	92.6
全体	559491	100.0	98432	100.00	117833	100.0	116145	100.0	81222	100.0	145859	100.0

【出典】Обзор Акмолинской области за 1894 год. Омск, 1896. Ведомость лит. А.

翌1895年の統計（表3）では、初めて農民がカザークを上回った（農民14.0%、カザーク12.7%）。郡ごとに見ても、オムスク郡とコクチェタフ郡で農民がカザークを逆転している。他方、カザフ人の割合はさらに低下し、オムスク郡に次いでペトロパヴロフスク郡でもカザフ人が過半数を下回るようになった。

1898年になると（表4）アクモリンスク州全体のカザフ人人口が初めて六割を切り、コクチェタフ郡でもカザフ人が過半数を下回った。その一方で、アトバサル郡の農民人口が12.3%まで増えており、農民の入植が南部にも拡大しつつあることがわかる。

表3 アクモリンスク州の住民構成（1895年）

	アクモリンスク州全体		オムスク郡		ペトロバヴロフスク郡		コクチェタフ郡		アトバサル郡		アクモリンスク郡	
	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%
農民	82799	14.0	18126	17.3	25295	19.2	27409	22.2	4634	6.0	7335	4.7
カザーク	75001	12.7	13959	13.3	32911	25.0	25709	20.8	1120	1.5	1302	0.8
カザフ人	379749	64.2	40713	38.9	62126	47.2	65480	53.0	69026	90.0	142404	91.7
全体	591800	100.0	104679	100.0	131574	100.0	123610	100.0	76690	100.0	155247	100.0

【出典】 Обзор Акмолинской области за 1895 год. Омск, 1897. Ведомость лит. А.

表4 アクモリンスク州の住民構成（1898年）

	アクモリンスク州全体		オムスク郡		ペトロバヴロフスク郡		コクチェタフ郡		アトバサル郡		アクモリンスク郡	
	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%
農民	143074	19.5	26426	19.8	41683	25.3	48364	30.4	10515	12.3	16086	8.4
カザーク	82995	11.3	15273	11.5	36892	22.4	27931	17.5	1272	1.5	1627	0.9
カザフ人	438046	59.7	52123	39.1	69759	42.4	75764	47.6	72173	84.2	168227	88.1
全体	733759	100.0	133217	100.0	164497	100.0	159323	100.0	85718	100.0	191004	100.0

【出典】 Обзор Акмолинской области за 1898 год. Омск, 1900. Ведомость лит. А.

20世紀に入ると、カザフ人と農民の人口がついに逆転する。表5が示すとおり、1908年には既に、カザフ人はアクモリンスク州人口の半分以上になっていた（45.8%）。オムスク郡、ペトロバヴロフスク郡、コクチェタフ郡ではカザフ人の割合は20%台から30%台まで低下した。南部のアトバサル郡とアクモリンスク郡でも農民人口がさらに急激に増加し、20%を超えるまでになっていた。

表5 アクモリンスク州の住民構成（1908年）

	アクモリンスク州全体		オムスク郡		ペトロバヴロフスク郡		コクチェタフ郡		アトバサル郡		アクモリンスク郡	
	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%
農民	354537	31.6	86752	36.2	67820	27.6	112102	45.3	31046	24.9	56818	21.5
カザーク	138820	12.4	32900	13.7	62794	25.6	36881	14.9	3928	3.2	2317	0.9
カザフ人	513528	45.8	55597	23.2	83896	34.1	90503	36.5	87170	70.0	196362	74.4
全体	1121001	100.0	239401	100.0	245723	100.0	247627	100.0	124499	100.0	263752	100.0

【出典】 Обзор Акмолинской области за 1908 год. Омск, 1909. Ведомости №№ 1-2.

そして1910年には、アクモリンスク州全体でみると、農民46.4%、カザフ人36.7%となり、農民とカザフ人が完全に逆転してしまった（表6）。それでもアトバサル郡とアクモリンスク郡ではカザフ人人口が農民人口を上回っているが、その差は急速に縮まっている。

表6 アクモリンスク州の住民構成（1910年）

	アクモリンスク州 全体		オムスク郡		ペトロバヴロフスク郡		コクチェタフ郡		アトバサル郡		アクモリンスク郡	
	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%
農民	670576	46.4	224268	61.5	125651	42.3	168833	53.5	60174	38.8	91650	29.4
カザーク	107250	7.4	18046	4.9	48532	16.3	37445	11.9	1735	1.1	1492	0.5
カザフ人	530187	36.7	55295	15.2	87133	29.3	94611	30.0	88257	57.0	204891	65.7
全体	1443721	100.0	364640	100.0	296956	100.0	315308	100.0	154929	100.0	311888	100.0

【出典】 Обзор Акмолинской области за 1910 год. Ведомости А и В.

第一次世界大戦開戦前夜の1913年には、州人口152万5543人のうち、農民人口は72万5088人（47.5％）まで増加し、カザフ人は56万2698人（36.9％）だった（表7）。ところが、1914年8月に第一次世界大戦が勃発すると、新規の移住が停止された影響で、農民人口の伸びが鈍化している。1915年には州人口157万9656人のうち、農民人口は74万4918人となり、州全体では微増しているものの、南部のアトバサル郡とアクモリンスク郡では減少している（表8）。

表7 アクモリンスク州の住民構成（1913年）

	アクモリンスク州 全体		オムスク郡		ペトロバヴロフスク郡		コクチェタフ郡		アトバサル郡		アクモリンスク郡	
	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%
農民	725088	47.5	214265	55.7	130287	44.3	207562	59.4	59986	38.3	112988	33.1
カザーク	115060	7.5	31192	8.1	45041	15.3	35530	10.2	1544	1.0	1753	0.5
カザフ人	562698	36.9	61191	15.9	86790	29.5	101351	29.0	94541	60.4	218825	64.1
全体	1525543	100.0	384423	100.0	293809	100.0	349241	100.0	156558	100.0	341512	100.0

【出典】 Обзор Акмолинской области за 1913 год. Ведомости № 2.

表8 アクモリンスク州の住民構成（1915年）

	アクモリンスク州 全体		オムスク郡		ペトロバヴロフスク郡		コクチェタフ郡		アトバサル郡		アクモリンスク郡	
	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%	人口	%
農民	744918	47.2	216355	56.5	144157	43.3	222842	62.0	55680	33.2	105884	31.4
カザーク	131232	8.3	32335	8.4	56824	17.1	36946	10.3	3096	1.8	2031	0.6
カザフ人	592332	37.5	59025	15.4	108293	32.5	95632	26.6	107919	64.4	221463	65.8
全体	1579656	100.0	382764	100.0	333156	100.0	359459	100.0	167475	100.0	336802	100.0

【出典】 Обзор Акмолинской области за 1915 год. Омск, 1917. Ведомость 1.

このように、アクモリンスク州に最初の農民移住者が現れたとされる1866年からわずか半世紀で、住民構成が完全に変わってしまった。農業に適した豊かな土壌が広がる北部から先にカザフ人の「余剰地」が切り取られ、農民の入植が進んだ。南部の2郡ではそれでもカザフ人人口が過半数を占めていたが、そこでも農民の割合が急速に増えていた。

第3章 アクモリンスク州入植者の出身地

どこの県の出身者がアクモリンスク州には多く集まっていたのだろうか。アクモリンスク州は、どこの地域の農民を特に多く惹きつけていたのだろうか。

先述のように、アクモリンスク州最初の無許可移住農民は、ベルミ県とトボリスク県からやっ

て来た。その後もしばらくはペルミ県の出身者が多数を占めていた。1893年1月1日までに最も多くの移住者を送り出したのはペルミ県（約30%）であり、トボリスク県、沿ヴォルガ地方のサマラ県、サラトフ県、オレンブルグ県、北部・中部黒土地帯のクルスク県、ヴォロネジ県、オリョール県、タンボフ県と続く⁵⁰⁾。

移住者用入植区画の区割りが始められ、アクモリンスク州にも正式な移住許可が与えられるようになると、1894年には9月1日までに2911世帯がアクモリンスク州に移住許可が与えられた。そのうち、中部黒土地帯のボルタワ県出身者が1445世帯、北部黒土地帯のペンザ県1324世帯だった⁵¹⁾。なお、アジアロシア移住全体では、1890年代から1900年代に、ヨーロッパロシア諸県の中で最も多くの移住者を送り出していたのはボルタワ県だった⁵²⁾。

1894年には54村3万9705人を数えた農民入植者は、5年後の1898年には138村12万2311人に急増していた。他方で、未だ入植先が決まらず経営を立ち上げていない無許可移住者は、ペトロパヴロフスク郡・コクチェタフ郡・アクモリンスク郡の3郡で2783世帯1万7730人に上り、彼らは主にサマラ県から来ていたという⁵³⁾。

1897年の国勢調査の時点でアクモリンスク州に居住する者のうち、アクモリンスク州以外の県もしくは州で生まれた者は、州全体で14万5292人だった（表9）。そのうち最も多かったのはボルタワ県出身者で、以下、サマラ県、トボリスク県、チェルニゴフ県（北部黒土地帯）、ペルミ県と続く。さらに彼らがどこに居住していたのか見ていくと、トボリスク県出身者は6割が都市部に居住しており、ペルミ県出身者も約四分の一が都市部に暮らしていた。それに対して、ボルタワ県とチェルニゴフ県はほとんどが郡部に居住しており、サマラ県、サラトフ県、ペンザ県出身者も九割が郡部居住である。郡部居住者を農業従事者と考えるならば、1897年までの農業移住者（農民もしくはカザーク）の出身県として特に多かったのは、ボルタワ県、チェルニゴフ県、サラトフ県、ペンザ県、サマラ県、ヴォロネジ県といったところであろう。

表10は、1894年から1913年のうち詳しい移住統計が残っている12年分のデータから、移住先をアクモリンスク州と申告した移住世帯（単身移住者を除く）のうち、多くを占めていた出身県を第4位まで挙げたものである。年ごとに変動が大きいですが、やはりボルタワ県、チェルニゴフ県、サマラ県、サラトフ県が目立つ。1900年代になると新ロシア地方のエカテリノスラフ県がそこに加わる。

50) Обзор Акмолинской области за 1892 год. (Приложение ко всеподданнейшему отчету Акмолинского губернатора.) Омск, 1893. С. 5.

51) Обзор Акмолинской области за 1894 год. Омск, 1896. С. 12.

52) 青木恭子「ウラルを越えた人びと—帝政末期ロシア移住民の出身地をめぐって」土肥恒之編『地域の比較社会史—ヨーロッパとロシア』日本エディタースクール出版部、2007年、334-342頁。

53) Обзор Акмолинской области за 1898 год. Омск, 1900. С. 11.

表9 アクモリンスク州外出身者（1897年）

出身県	アクモリンスク州		居住場所			
	全体	内訳（%）	都市部	%	郡部	%
ボルタワ	21763	15.0	269	1.2	21494	98.8
サマラ	19184	13.2	1945	10.1	17239	89.9
トボリスク	18415	12.7	11123	60.4	7292	39.6
チェルニゴフ	10666	7.3	289	2.7	10377	97.3
ベルミ	8744	6.0	2153	24.6	6591	75.4
サラトフ	6515	4.5	635	9.7	5880	90.3
ベンザ	5326	3.7	510	9.6	4816	90.4
ヴォロネジ	5027	3.5	814	16.2	4213	83.8
全体	145292	100.0	34626	23.8	110666	76.2

【出典】 Первая всеобщая перепись. Акмолинская область. С. 24-27.

表10 移住先をアクモリンスク州と申告した移住者の出身県

	アクモリンスク州への全移住世帯数	出身県名	世帯数	%	出身県名	世帯数	%	出身県名	世帯数	%	出身県名	世帯数	%
1894年	1244	チェルニゴフ	162	34.9	ボルタワ	101	21.8	サマラ	90	19.4	サラトフ	27	5.8
1895年	13706	チェルニゴフ	824	22.5	ボルタワ	732	20.0	ベンザ	696	19.0	サマラ	495	13.5
1896年	28631	ボルタワ	2853	39.5	チェルニゴフ	1127	15.6	サマラ	492	6.8	サラトフ	376	5.2
1897年	11074	ヘルソン	302	12.8	チェルニゴフ	287	12.2	ボルタワ	243	10.3	リフリャント	189	8.0
1898年	23742	サマラ	1326	42.1	キエフ	170	5.4	サラトフ	157	5.0	ウファ	155	4.9
1899年	28783	サマラ	2034	45.3	ボルタワ	271	6.0	サラトフ	227	5.1	キエフ	181	4.0
1901年	13107	ボルタワ	280	21.6	エカテリノスラフ	216	16.7	ヘルソン	98	7.6	チェルニゴフ	84	6.5
1902年	13107	ボルタワ	280	21.6	エカテリノスラフ	216	16.7	ヘルソン	98	7.6	チェルニゴフ	84	6.5
1903年	10844	ボルタワ	116	12.5	サラトフ	111	11.9	サマラ	102	11.0	タヴリダ	90	9.7
1906年	21997	サマラ	1239	16.4	エカテリノスラフ	642	8.5	ボルタワ	620	8.2	サラトフ	619	8.2
1907年	67137	ハリコフ	1203	13.6	ボルタワ	1121	12.7	キエフ	940	10.6	チェルニゴフ	809	9.1
1913年	38005	ヘルソン	725	14.3	エカテリノスラフ	519	10.2	サマラ	464	9.1	ハリコフ	419	8.3

【出典】 Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, извлеченный из книг общей регистрации переселенцев, проходивших в Сибирь и возвращавших из Сибири через Челябинск в 1894 году. М., 1899. С. 12–31; Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, извлеченный из книг общей регистрации переселенцев, проходивших в Сибирь и возвращавших из Сибири через Челябинск в 1895 году. М., 1898. С. 18–41.; Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, извлеченный из книг общей регистрации переселенцев, проходивших в Сибирь и возвращавших из Сибири через Челябинск в 1896 году. М., 1899. С. 26–61.; Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, собранный путем регистрации переселенцев проходивших в Сибирь и возвращавшихся из Сибири через Челябинск в 1897 году. М., 1901. С. 26–89; Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, собранный путем регистрации переселенцев проходивших в Сибирь и возвращавшихся из Сибири через Челябинск в 1898 году. М., 1904. С. 94–141.; 1899 год. Сибирское переселение. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Сборник цифровых материалов для изучения крестьянских переселений. Вып.1. Движение в Сибирь. Челябинск, 1902. С.82–159.; 1901 год. Сибирское переселение. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Сборник цифровых материалов для изучения крестьянских переселений. Вып.1. Движение в Сибирь. Челябинск, 1905. С. 88–137.; 1902 год. Сибирское переселение. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Сборник цифровых материалов для изучения крестьянских переселений. Вып.1. Движение в Сибирь. Челябинск. С. 78–129.; 1903 год. Сибирское переселение. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Сборник цифровых материалов для изучения

крестьянских переселений. Челябинск. С. 84–135.; 1906 год. Сибирское переселение. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Сборник цифровых материалов для изучения крестьянских переселений. Челябинск. С. 86–145.; 1907 год. Сибирское переселение. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Сборник цифровых материалов для изучения крестьянских переселений. Челябинск. С. 80–131; 1913 год. Сибирское переселение. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Сборник цифровых материалов для изучения крестьянских переселений. Челябинск. С. 150–299.

表11の「民族」分布からも興味深いことがわかる。母語集団による人口分布を見ると、1897年には広義のロシア語話者が州全体の33.1%を占めているが、そのほとんどが大ロシア語の話者である。小ロシア語話者は、ペトロパヴロフスク郡とコクチェタフ郡の郡部で10%を超えているが、全体的に少ない。都市部に限ってみると、大ロシア語話者が70.9%、タタール語話者も11.8%を占めている。とりわけペトロパヴロフスク市にタタール語話者が多い(31.1%)⁵⁴⁾。

表 11 アクモリンスク州居住者の母語 (1897年)

	全体		ロシア語	%	うち、				ドイツ語	%	タタール語	%	カザフ語	%
	人口	人口分布			大ロシア語	%	小ロシア語	%						
アクモリンスク州全体	682608	100.0	225641	33.1	174292	25.5	51103	7.5	4791	0.7	10819	1.6	427389	62.6
都市部	74752	11.0	54133	72.4	52971	70.9	1097	1.5	700	0.9	8830	11.8	6758	9.0
都市以外の郡部	607856	89.0	171508	28.2	121321	20.0	50006	8.2	4091	0.7	1989	0.3	420631	69.2
オムスク郡	100539	14.7	55169	54.9	50775	50.5	4318	4.3	3315	3.3	851	0.8	38185	38.0
オムスク市	37376	5.5	33042	88.4	32569	87.1	416	1.1	437	1.2	769	2.1	505	1.4
市以外の郡部	63163	9.3	22127	35.0	18206	28.8	3902	6.2	2878	4.6	82	0.1	37680	59.7
ペトロパヴロフスク郡	155137	22.7	77323	49.8	56888	36.7	20351	13.1	1383	0.7	6619	4.3	69092	44.5
ペトロパヴロフスク市	19688	2.9	10600	53.8	10464	53.1	136	0.7	205	2.1	6129	31.1	2201	11.2
市以外の郡部	135449	19.8	66723	49.3	46424	34.3	20215	14.9	1178	0.7	490	0.4	66891	49.4
コクチェタフ郡	155461	22.8	67548	43.5	48157	31.0	19328	12.4	38	0.0	1575	1.0	79041	50.8
コクチェタフ市	4962	0.7	3490	70.3	3111	62.7	379	7.6	37	1.2	481	9.7	800	16.1
市以外の郡部	150499	22.0	64058	42.6	45046	29.9	18949	12.6	1	0.0	1094	0.7	78241	52.0
アトバサル郡	86413	12.7	11081	12.8	9174	10.6	1899	2.2	24	0.0	459	0.5	74728	86.5
アトバサル市	3038	0.4	2273	74.8	2208	72.7	65	2.1	2	0.0	416	13.7	232	7.6
市以外の郡部	83375	12.2	8808	10.6	6966	8.4	1834	2.2	22	0.0	43	0.1	74496	89.4
アクモリンスク郡	185058	27.1	14520	7.8	9298	5.0	5207	2.8	31	0.0	1315	0.7	166343	89.9
アクモリンスク市	9688	1.4	4728	48.8	4619	47.7	101	1.0	19	0.1	1035	10.7	3020	31.2
市以外の郡部	175370	25.7	9792	5.6	4679	2.7	5106	2.9	12	0.0	280	0.2	163323	93.1

【出典】 Первая всеобщая перепись. Акмолинская область. С. 50–51.

1913年になると、母語と宗教から類推された「民族」で、「大ロシア人」が州全体の31.9%、「小ロシア人」が24.4%となっている(表12)。都市部では「大ロシア人」が七割近くを占めているが、都市部以外の郡部では、「小ロシア人」の方が若干上回っている。これは、1897年以

54) ロシア帝国統治下のカザフ草原におけるタタール人の役割については、Gulmira Sultangalieva, “The Russian Empire and the intermediary role of Tatars in Kazakhstan: The politics of cooperation and rejection”, in Uyama Tomohiko, ed., *Asiatic Russia: Imperial Power in Regional and International Contexts*, Routledge, 2012, pp. 52–79.

表 12 アクモリンスク州住民の民族構成 (1913年)

	全体		ロシア人	%	うち				ドイツ人	%	タタール人	%	カザフ人	%
	人口	人口分布%			大ロシア人	%	小ロシア人	%						
州全体	1525543	100.0	859593	56.3	487267	31.9	372326	24.4	41279	2.7	22232	1.5	562698	36.9
都市部	204346	13.4	158423	77.5	138938	68.0	19485	9.5	3377	1.7	18914	9.3	11659	5.7
都市以外の郡部	1321197	86.6	701170	53.1	348329	26.4	352841	26.7	37902	2.9	3318	0.3	551039	41.7
オムスク郡	384423	25.2	282298	73.4	196169	51.0	86129	22.4	21448	5.6	4509	1.2	61191	15.9
オムスク市	137245	9.0	116056	84.6	103109	75.1	12947	9.4	2921	2.1	4244	3.1	4505	3.3
市以外の郡部	247178	16.2	166242	67.3	93060	37.6	73182	29.6	18527	7.5	265	0.1	56686	22.9
ペトロバヴロフスク郡	293809	19.3	190958	65.0	102536	34.9	88422	30.1	2340	0.8	9870	3.4	86790	29.5
ペトロバヴロフスク市	42340	2.8	29760	70.3	25323	59.8	4437	10.5	319	0.8	9575	22.6	1358	3.2
市以外の郡部	251469	16.5	161198	64.1	77213	30.7	83985	33.4	2021	0.8	295	0.1	85432	34.0
コクシェフ郡	349241	22.9	220105	63.0	130983	37.5	89122	25.5	5844	1.7	3262	0.9	101351	29.0
コクシェフ市	5038	0.3	3480	69.1	3118	61.9	362	7.2	31	0.6	763	15.1	420	8.3
市以外の郡部	344203	22.6	216625	62.9	127865	37.1	88760	25.8	5813	1.7	2499	0.7	100931	29.3
アトバサル郡	156558	10.3	60938	38.9	18143	11.6	42795	27.3	266	0.2	585	0.4	94541	60.4
アトバサル市	3142	0.2	2316	73.7	2260	71.9	56	1.8	30	1.0	543	17.3	213	6.8
市以外の郡部	153416	10.1	58622	38.2	15883	10.4	42739	27.9	236	0.2	42	0.0	94328	61.5
アクモリンスク郡	341512	22.4	105294	30.8	39436	11.5	65858	19.3	11381	3.3	4006	1.2	218825	64.1
アクモリンスク市	16581	1.1	6811	41.1	5128	30.9	1683	10.2	76	0.5	3789	22.9	5163	31.1
市以外の郡部	324931	21.3	98483	30.3	34308	10.6	64175	19.8	11305	3.5	217	0.1	213662	65.8

【出典】 Обзор Акмолинской области за 1913 год. Ведомости №2.

降に急増した移住農民にはボルタワ県やチェルニゴフ県などウクライナ地域の出身者が多かったことによるものと考えられる。

他にも注目したいのは「ドイツ人」である。彼らはいわゆる「ドイツ人植民者」のことである。ドイツ人植民者とは、18世紀後半から19世紀初頭にかけて、ロシア政府の外国人入植誘致政策によって、主に沿ヴォルガ地方や黒海北岸地域（新ロシア地方）に入植したロシアドイツ人のことである⁵⁵⁾。19世紀末にはロシアドイツ人がさらにアジアロシアへ移住するケースも見られるようになる。詳細な移住統計が確認できる1894–1899年、1901–1903年、1906–1907年の11年間の累計で、移住のためアジアロシアへ向かったドイツ人植民者は4755世帯だった。出身県別に見ると、同期間にサマラ県から移住した世帯の11.9%（1562世帯）がドイツ人植民者で、同じくサラトフ県では13.3%（770世帯）、エカテリノスラフ県では12.7%（694世帯）、タヴリダ県では12.4%（386世帯）、ヘルソン県では7.0%（328世帯）がドイツ人植民者世帯だった⁵⁶⁾。

55) 鈴木健夫『ロシアドイツ人—移動を強いられた苦難の歴史』亜紀書房、2021年、32–70頁。

56) Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, в 1894 году. С. 2–11; Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, в 1895 году. С. 2–17.; Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, в 1896 году. С. 1–25.; Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, в 1897 году. С. 2–25; Цифровой материал для изучения переселений в Сибирь, в 1898 году. С. 24–47.; 1899 год. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Вып.1. С.4–29.; 1901 год. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Вып.1. С. 4–29.; 1902 год. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. Вып.1. С. 4–27.; 1903 год. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. С. 4–29.; 1906 год. Итоги учета

1899年の『アクモリンスク州概要』にも、新たな動向として、サラトフ県とサマラ県のドイツ人植民者が増えていることが記されている⁵⁷⁾。P. ヴィベのロシアドイツ人研究によると、サラトフ県とサマラ県のドイツ人入植者が1893年から1896年にかけてアクモリンスク州オムスク郡に入植したことが、彼らのアジアロシア入植の最初であるという⁵⁸⁾。

1897年には、「ドイツ語話者」はアクモリンスク州全体の人口の1%にも満たず、居住地域も最初に入植したオムスク郡とペトロパヴロフスク郡にほぼ限られていた。その後彼らの移住も増加し、1913年になるとコクチェタフ郡とアクモリンスク郡にもドイツ人入植地が拡大していることがわかる。

ロシアドイツ人は言葉や慣習の異なるロシア人と同じ集落に入植することを好まず、あとから移住してくる者も含め、ドイツ人入植地を形成して集住した。1915年までに、アクモリンスク州オムスク郡の5つの郷の国有地に、ドイツ人入植地が20集落形成されていた⁵⁹⁾。

出身地に関するデータからは、彼らがカザークなのか農民なのかということまではわからない。1890年代初頭までにアクモリンスク州へ移住したのはベルミ県とトボリスク県出身者が多く、しかも都市部に居住する者が多い。1890年代後半以降の移住者は、もっぱらヨーロッパロシアの北部・中部黒土地帯、沿ヴォルガ地方、新ロシア地方の出身者である。そこには、広義のロシア人だけでなく、ドイツ人入植者も含まれていた。

おわりに

アクモリンスク州がロシア帝国の統治下に組み込まれたのは、19世紀初めのことである。最初のロシア人移住者は、辺境防衛を主たる任務とするカザークだった。元来ここにはカザフ人遊牧民の暮らしがあった。彼らを新たなロシア帝国臣民として統治下に組み込むこともまた、政府にとって重要な課題となった。1890年代後半以降、アクモリンスク州への農業移住が本格化すると、主にヨーロッパロシアの黒土地帯諸県から大量の移住者が押し寄せた。1868年には州人口の約73%が遊牧民だったが、1913年にはカザフ人が州人口の約四割弱、広義のロシア人が過半数を占めるまでに至った。わずか半世紀でアクモリンスク州の住民構成はすっかり変わってしまった。しかも、農民の入植は豊かな土壌が広がる北部から始まり、そこでは特に多くのカザフ人利用地が切り取られ、農民の入植地に変えられてしまった。遊牧民の土地を

переселенческого движения в Челябинске. С. 4–35.; 1907 год. Итоги учета переселенческого движения в Челябинске. С. 4–33.

57) Обзор Акмолинской области за 1899 год. Омск, 1901. С. 13.

58) *Вибе П. П.* Немецкие колонии в Сибири в условиях социальных трансформации конца XIX – первой трети XX вв. Омск, 2011. С. 38–43.

59) *Вибе.* Немецкие колонии в Сибири в условиях социальных трансформации. С. 43.

奪ったロシア人農民が「ロシア帝国による植民地支配の尖兵」と呼ばれるのも、当然と言えば当然であろう。

だが、ロシア人農民による植民を推進することで、ステップ諸州における帝国の支配を固め、カザフ人遊牧民を「文明化」し定住生活への移行を促すという意図が帝政ロシア政府の側にはあったとしても、そもそも移住農民とは政府の思惑通りに行動するような従順な人々ではない⁶⁰⁾。しかもアクモリンスク州には無許可移住者が多く集まっていた。無許可移住を撲滅し、移住を管理・統制しようとする政府の方針に最も従っていないのが、無許可移住者である。政府の意向とは無関係に行動する移住者がアクモリンスク州では6割を占めているにもかかわらず、農民移住者を一括りに「植民地支配の尖兵」とみなすのは、単純すぎるように思われる。

それでは、なぜこれほど多くの移住者がアクモリンスク州を選んで移住したのだろうか。その「移動の論理」の解明は今後の課題である。

【附記】本研究はJSPS科研費JP23K00904の助成を受けたものです。

地図 ロシア帝国領ステップ諸州



【出典】宇山智彦（編著）『中央アジアを知るための60章』（明石書店、2003年）57頁より作成

60) 青木恭子「帝政末期のアジアロシア移住政策をめぐる一考察——移住を許可された世帯の分析」『ロシア史研究』第84号、2009年6月、24-46頁。同「帝政末期アジアロシア移住農民の意識と行動に関する一考察——無許可移住者の分析を中心に」『ロシア史研究』第87号、2010年12月、3-22頁。同「「Организованное ходячество」（組織された先遣人派遣）——20世紀初頭の帝政ロシアにおける移住政策の転換」『富山大学人文学部紀要』第62号、2015年2月、141-162頁。同「帝政ロシア国内植民事業にみる「移動する論理」と「移動させる論理」」北村暁夫・田中ひかる編『近代ヨーロッパと人の移動——植民地・労働・家族・強制』山川出版社、2020年、12-30頁。

